

令和 7 年 1 月 21 日

松阪市議会議長 中島 清晴 様

蒼水会 代表 濱口 高志

蒼水会 研修参加報告書



日 時 令和 7 年 1 月 12 日 (日)

会 場 OA 第二ビル3F 名古屋セミナーオフィス

テ ー マ 効果を上げる議員活動とは

講 師 松野 豊(元流山市議会議員)、木村 亮太(元枚方市議会議長)

参 加 者 蒼水会 沖 和哉、野呂 一平

目 的 20年前から千葉県流山市議会の議会改革を先導し、全国の自治体や議会の改革をリードしてきた松野氏と、最年少でありながら大阪府枚方市議会での議会運営委員長や議長を歴任し、政策提言を主導してきた木村氏から、地方議会の現場を引っ張ってきたフロントランナーとしての取り組みや、個人ではなく仲間や委員会等、議会全体をまきこんでいく改革手法等を学び、日頃の議会活動における効果や意義を高めていきたい。

1 執行機関とどう向き合うか～

(1)ヒアリングの仕方・質問の作り方

効果を上げる議員活動とは
職員との接し方、ヒアリングの技法
市民との接し方、市民相談から政策へ
効果的な質疑質問のポイント
役所に言いくるめられないためのポイント
答弁への効果的な切り返し方



左:松野 豊氏

右:木村 亮太氏

(2)政策を実現させるために必要なこと

どう行動したら議会や役所が変わったか実例から学ぶ
こんな場合どうしたらいいのか？直接アドバイス

■トークセッション(双方向方式)

2 ヒアリングの仕方・質問の作り方

効果を上げる議員活動とは/職員との接し方、ヒアリングの技法
市民との接し方、市民相談から政策へ/効果的な質疑質問のポイント
役所に言いくるめられないためのポイント/答弁への効果的な切り返し方

かみ合う質問にするために必要なこと

5W1Hを意識して、事前準備と決算質疑に臨む

漠然と取り組み状況を聞くと漠然とした答弁が返ってきて、実のあるやり取りにならない。
「When：いつ」「Where：どこで」「Who：だれが」「What：何を」「Why：なぜ」「How：どのように」
といった英単語の頭文字を取った思考整理のフレームワーク

When (いつ) いつ実施したのか いつからやるのか	Where (どこで) 待機児童はこの園で発生しているのか？ どこで啓発をしているのか	Who (誰が) 担当課は誰か 誰と誰が話をするのか
What (何を) 調査をするのか、会議をするのか イベントや連絡で何を伝えたのか	Why (なぜ) なぜこの事業を実施しているのか なぜ増加/減少しているのか	How (どのように) どのような調査を行うのか(ハガキ/ネット) 地元との協議をどのようにやるのか

3 政策提言を実現させるために必要なこと

■一般質問とは

- 【定義】一般質問とは、議員が執行部に対して、行政事務の執行状況や計画の方針や考え方などの疑問点について、見解を求めたり、住民にとって適切な行政運営をしているかをチェックしたり、行政運営全般について、質問を通じて政策提案するもの。

▶標準市議会会議規則

(一般質問)

第62条 議員は、市の一般事務について、議長の許可を得て質問することができる。

- その質問は、何のためにするのか？
- その質問は、誰のためのものか？
- 質の高い質問とは、どんな質問なのか？
 - ①その質問は、誰のためのものか？
 - ②論点・争点は明確になっているか？
 - ③質問の対象となる問題の現状（事実）が把握できているか？
- 執行部とディベートして、勝ち誇って自慢するというマスターベーションにはまっていないか？
- 執行部と対決するのではなく、対話する。一緒に政策（課題解決策）を考えるというスタンス。

どう行動したら議会や役所が変わったか実例から学ぶ

こんな場合どうしたらいいのか？直接アドバイス

《ポイント》

いくら正論を言ってもなかなか通らない（期を追うごとに実現率はあがる）

一般質問で刺すより個別相談で落とす → 一般質問は割り切ってセレモニーと考える

職員の素晴らしい意見を吸い上げて議員として実現させる。

職員を論破するのではなく一緒に考える / 質問と質疑とを使い分ける

一般質問がディベートになりがちである ➡ 一般質問は対話するもの

A 案(議員)と B 案(行政)の意見を対話させて C 案(折衷案)をつくる。

政策提案を実現させるために

そもそも問題と認識してもらうために	時間がない場合	お金がない、予算がない場合
■ まずは共通の問題意識を持てるかどうか ■ 実績や他市事例をチェックする ■ 例) ●●が減っている、増えている ■ 一緒に勉強をしながら、職員にも問題意識を聞き、自身の問題意識も伝える ■ 生の声を集める 例) issuesを使う ■ 数字、法律、市民のニーズ ■ 議員としての本気度を伝える	■ 答弁までの時間 ■ 業務時間→優先順位を上げてもらう ■ 通告して答弁までは1週間程度 ■ その1週間だけで意思決定が非常に困難 ■ 予め伝える ■ 一緒に勉強をしながら、日々コミュニケーションをとる	■ 国府県の補助金動向をチェックする ■ 国府県の通知等をチェックする ■ 繰り返し質問で取り上げる ■ 近隣他市、類似自治体の状況をチェックする ■ 例えば、枚方市の場合北河内7市の動向や全国の中核市 ■ ●●市の場合であれば、●●市の動向や、全国の同規模自治体の動向

4 トークセッション(双方向方式)



グループセッションに参加し、政策に関する活発な意見交換をおこなう。各議員が自身の地域の課題や取り組みについて共有し、互いに学び合う貴重な機会となる。

《主要な議題》

部活動の地域移行/政策実現と選挙/
地域要望と市政改革 など

《主な内容 ポイント》

シティープロモーションを頑張って人口増加を図る

大事なことはプロモーションよりマーケティング

議員の活動をどうやって広報活動につなげて投票行動につなげるのか？

市議会での活動は市民には見え難い

原点回帰：何で自分は議員になったのか？

➡ あれもこれも実現できないので「あれかこれか」で実現する

選挙戦略(空中戦・地上戦)は割り切りである

活動報告(チラシ;A4 両面 白黒) ➡ 3ヶ月に1回全戸配布

チラシを情報誌っぽくつくる(政務活動費を活用する)

ブログを月20回更新 = どれだけ情報を発信するか

折込よりもポスティング、業者よりも自分(自分でポスティング)

地域課題をやると地域評価は上がるが、市政課題を頑張っても評価は上がらない

一般質問を市民相談からつくる

市民はあまり議会に興味がない ➡ 市民と議会にはまだまだ距離がある

議会報告会以外に、議会事務局の職員が傍聴参加の促進などで地域を回っている

議員が参加者を集めても知り合いしか来ない

高校3年生に直撃で傍聴や報告会への参加を促してはどうか？

議会広報誌にアンケートを取っている

広報課の人員ローテも議会としてお願いする

グループダイナミクス(個人➡会派➡委員会➡議会)に目を配る

■政策を実現するために必要なこと

■ コミュニケーション力を極める。

「アナタとワタシは理解しあえない」、「コミュニケーションとは、すれ違うもの」

“無知の知”と同じで、上記のことを腹に落とすことがスタートライン。

議会は“言論の府”ではあるが、ホワイトボードやプロジェクターなども日頃から有効活用する。

■ グループダイナミクスを発揮する。

自分ひとりだけの力が如何に無力かということを知る。

■ マックス・ウェーバーは、「職業としての政治」の中で、政治家に求められる資質は、以下の３点だと述べている。

①情熱

②責任感

③判断力

私自身の経験から振り返ると、上記に加えて自分が信頼できる外部ブレーンをどれだけ持つことができるか。

私の場合は、弁護士、公認会計士、税理士、シンクタンク研究員、大学教授、官僚、自治体職員、政策秘書、クリエイティブ・ディレクター、データサイエンティスト、ドットジェイピーのインターン生（現役高校生や大学生）など様々な立場の多くの市民や友人たちが私の議会活動を支えてくれた。

5 所 感

◇市議会議員にとってのヒアリングや質問は、目的を明確にして知りたいことに具体性を持たせ、背景情報や関連するデータを事前に収集し質問の流れをシミュレーションするなど、事前準備をしっかりとおこなわなくてはならない。また、相手の話をよく聞き、適切なフィードバックをおこない、話しやすい環境を整えることが大切である。オープンプレステーションを活用し、中立的で客観的な態度を保ち、ヒアリング後も、ポイントを整理し記録する。ポイントを押さえたヒアリングは、市民の声をよりの確に反映させることができる。

ヒアリングと質問の技術を磨くことは、市民の声を真に反映させるための重要なステップである。今回の研修を通じて、より効果的なコミュニケーションと問題解決の方法を学んだ。これからも、市民の皆様の声をしっかりと受け止め、より良い松阪市を目指して努力していきたい。

また、政策実現に向けては、多様な声を政策に反映させるために、市民参加型のワークショップやアンケートを活用して、幅広い意見収集をおこなっていききたい。データや事例に基づいて政策を策定し、その根拠を明確にすることで、信頼性の高い政策を提案することができる。エビデンスベースのアプローチを取り入れることの重要性を再認識できた。

加えて、他議員や関係者との連携も重要であり、協力体制を築き、政策のビジョンや目標を関係者や市民と共有し、達成に向けた具体的な計画も立てていかななくてはならない。広報誌の発刊や SNS など、市民やメディア、関係者との効果的なコミュニケーションを通じて、政策の意義や目的を理解してもらうことの大切さも実感した。わかりやすい言葉での説明、質問や意見に対する丁寧な対応など、多方面の気配りも必要である。政策の実施後には、その効果を評価し、必要に応じて改善点を見つけることも重要であるとする。市民や関係者からのフィードバックを受け入れ、更なる政策策定に活かしていきたい。

この度の座学研修やグループセッションは、私にとって非常に有意義で充実した時間となった。他市町の議員の皆様との意見交換は、新たな視点やアイデアを得る貴重な機会であり、地域間の連携を一層深めることにもなった。特に印象的だったのは、議会活動の周知に対する部分で、独自に取り組んでいる革新的な方法についての共有が行われたことである。私たちの地域でも導入可能な具体的な方法を学ぶことができ、大変刺激を受けた。

全体を通して、今回のセッションで得た知識と経験は、市民の皆様生活をより良くするための政策に直結するものであり、今後の活動に大いに役立つと確信している。他市町の議員の皆様との連携を一層強化し、共に地域の発展を目指して努力していきたい。具体的な問題点や課題を明らかにし、効果的な政策提言をおこなうよう心掛けたい。

文責：野呂 一平

◆28歳の時に松野 豊氏が監修に関わった1冊の本と出逢ったことが、政治の道を志したひとつのきっかけである。それから17年。紆余曲折ありながら今の職責を預かっているが、果たして当時の信念や情熱、目指した社会の在り方やまちづくりのかたちは、今もぶれることなく向き合えているか。時折、自問自答することがある。市議会議員として、地方の政治家のひとりとして、11年半の時間を費やしてきたけれど、どれだけ市民の役に立てたのか、どれだけより良い市政の構築に貢献できたのか。11年前には鼻で笑うようにあしらわれた提言や問題提起も、3・4年経って実現したり改善がなされたりしたことや、市の事業にほころびが生まれそうになった際には、諸先輩の協力を得ながら予算の修正案を発議して可決できたこともあった。あれもこれも自分が関わったのだとか、提案者は自分なのだとひけらかすことは野暮だと思っていたし、ことさらにアピールすることもなかったように思う。けれども、議員や議会の取り組みによっては、行政と対等に向き合えるし、間違いを正したり、より良い仕組みや新しい取り組みをはじめたりする、重要なきっかけとなれるのだときちんと市民に伝えていくことも、議会や議員の重要な責任なのだと再認識できた。

11年間、試行錯誤しながら行政執行部と向き合ってきたこと。対等に議論するために知識を蓄え、最新データを実装し、国の制度や財政の仕組みを読み解きながら、さまざまな政策を提言してきたこと。これまでの取り組みはけっして間違いじゃなく、自分がたどってきた道の先に、地方議会をリードしてきた講師のおふたりのような実践があるのだと思えたことは、素直に嬉しいし。

過去の自分を振り返って、今ならもっと上手にできたのにな、と思うことも少なくない一方で、この10年の経緯があってこそ、今の自分があるのだという、至極当たり前のことを改めて感じた1日であったと思う。

17年前に思い描いた理想とする政治のありかたを、今一度磨き上げ、初心に帰って日々の活動に取り組んでいきたい。

文責：沖 和哉